

桜川文芸

俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】
宝塔の孔雀降り立つ牡丹寺

寄せ書きにある日の記憶青嵐

糸蜻蛉旅の疲れのうすうすと

自転車で遠くは行かぬ麦の秋

山祇の声にはじまる梨摘花

この道は未来へ続く青田風

水鶏鳴き関東平野に夜が来る

【茂山俳句会】

サングラスかけても口に出せぬこと

薫風や三百畳の堂に坐す

人波や四角い空の街薄暑

薫風や板戸掩ひに能舞台

ポケットにしわくちやの札更衣

緋牡丹をほめほめ坐る暮の敵手

藤田 凡鐘

金田とう女

仁平 房女

若色寿美女

島田喜与子

萩原 勅彦

萩原きしの

井坂 洋子

今井 繁子

吉原 秀子

海老沢静夫

鶴見 菊江

関根 幸子

智恵のつく童のひとみ花しょうぶ

袖口をめくる仕草も薄暑かな

父の日やたしなむ詩と酒がある

母の街子の街つなぐ虹の脚

二階から虹が出たよと孫の声

新しき生命に乾杯五月晴

水郷の水の十字路花菖蒲

椎咲きて漢の匂ひまきちらす

道路鏡つなぐ左右の木下闇

またもとの雑木にもどる山桜

短歌

【真壁短歌会】

一雨をいっきにのみし麦青く

ひかりは満ちて春本番ぞ

数年前伐りし槐の切株に

飯山 昭

竹林 てる

田崎 信子

大関 くに

鈴木ノブ子

宮本 芳江

植田 祥雲

松崎 いま

宮本 芳江

鈴木ノブ子

大関 くに

田崎 信子

竹林 てる

泉 健作

飯山 昭

田中 要

小林 和子

「おぼろ」という銘ある香を手向けおり
京より帰省の孫の運びし

根本よし子

枯死せしと半ば諦らむ「さんざし」の

春陽に目覚めしか青芽吹き出す

樹の下のかげりに著我の一日花

つぎつぎ咲きてひかりをつなぐ

ひらく朝とちる夕べをくり返し

チューリップ庭に日々を彩どる

【一般投稿】

五月日和新緑浴びて秋田路を

望む栗駒残雪の山並み

万緑の野山装い水の音

紫陽花の彩極めて雨上がる

【さくら謡会】

野球選手になるよと書いて

吊す短冊星まつり

梅井 光子

市村 ヤス

青木 栄子

宮田 君江

市村 ヤス

青木 栄子

宮田 君江

市村 ヤス

青木 栄子

宮田 君江

市村 ヤス

青木 栄子

宮田 君江

市村 ヤス

青木 栄子

宮田 君江

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ